

夏が来れば・・・冬が来れば・・・

山岡 信義

夏が来れば思い出すのが「ほるかな尾瀬」これは唄の文句だが、私は三月下旬 現地では未だ雪に閉ざされた銀世界を思い出す。大学一年生のクラブ春合宿が尾瀬ヶ原で、大阪から東京は在来線、そして上野から夜行列車に乗り込んだ。乗客はスキー道具・キスリング 帆布で出来た縦長大型リュックサック等の荷物が多く乗り込むのが大変、降りる時も荷物を探し出して列車から降ろす事がもっと大変で、皆自分の荷物を駅によく降ろせた事だ！多分運転手も時間が掛るのを想定して、停車時間を延ばしてくれたのだろう。多くの客は越後のスキー場らしい。ともかく荷物があっても、食料品の一部は長蔵小屋や他の所に秋の内にテポしてあっても、冬装備なので着替えも分厚く嵩張った毛のPATCHやシャツ。初日は鳩待山荘、山小屋でよかった！翌日スキーで至仏山へ、当然登りはシールを付けて。翌日は全装備を担いでスキーで移動。こけるとさあー大変！一人では起き上がる事が出来なかった。その夜は雪上テント、冬用でない寝袋でエアーマットの上で寝るが、ザックに足側を入れても寒いこと夥しく テント内にも氷が。特に下っ端の一年生は滅茶苦茶しんどかったし、つらかった事も多かったが、今思い返せば懐かしく、笑い話になる。時々会う同期仲間水芭蕉を見に六月初旬尾瀬ヶ原へとの話になり、即決。同期仲間5人で五十年振りに初夏の尾瀬ヶ原へ、山に登らず花を求めて。今でも尾瀬は遠い、

新幹線を乗り継いで、バスも乗り継いで。そして鳩待峠から山の鼻小屋へ。東京から日帰りのバスが出ているので、大勢の観光客が押し寄せていた。山の鼻は規模が小さいので家庭的な雰囲気。食事も手作りなのか美味しい、ビールが進む。お風呂は自然保護の為シャンプー。石鹸禁止！歯磨き粉も禁止！でも浸かるだけでほっこり！トイレも水洗だが紙は別の容器に。近くに東電の水力発電所もあり水も電気も豊富だが、下水処理だけはヘリコプターで下界に降ろして処理する様だ。クマ除けの鉦がぶら下がっていたり、水芭蕉もここに。翌日 湿地帯の木道を長蔵小屋へ、途中見晴の小屋でコーヒータイム。ピンクのシヨウジョウバカマ、黄色いリュウキンカ、あ、白い花はニリンソウだ、ミツガシワ、ワタスゲも。まだまだ名も知らぬ花々が！白砂峠付近は残雪が多く歩き難いが三十分程で尾瀬沼。長蔵小屋は大きいため食事も機械的で内容も今一、宿泊客が多いと仕方ないか。でも周辺の景色は最高、燧岳も沼に写っていて感激。二泊三日の旅費は占めて六万六千円は安い？これで夏が来れば、人並みに尾瀬を思い出すでしょう。もちろん銀世界のこと忘れず！

天阪のいぶき118号」投稿

